



明治神宮

所長コメント

今年も正月に東京の明治神宮と浅草寺(せんそうじ)に初詣をした。

日本一参拝者が多いといわれる明治神宮は私が訪れた2日朝は思ったほどではなかった。最寄りの原宿駅も山手線の外回り、内回りのプラットホームが、混雑を避けるために臨時に別々に分けてあった。参道も一方通行で、行く人、帰る人がぶつからないように工夫されていた。その後訪れた浅草寺はものすごい人だった。巨大な賽銭箱というより白い布で作った入れ物にたどり着くのに時間ぐらしかかった。賽銭が後ろから頭の上を飛び超えていく。人に押されて二礼二拍手一礼するのも大変である。待て待て、ここはお寺だ。本来合掌だよ。後から気付く。でも半



浅草寺(せんそうじ)

分ぐらいの人は神社と混同しているようだ。まあ、教会に行ってもポンポン拍手(かしわで)を打つわけでもないし、よいよい。

両方とも警察官が多数配置され、思わず「正月早々ご苦労様」と言いたくなる。明石の花火大会の事故以降、警察の警備責任が問われるケースが起きているので、なおさらかもしれない。

その後、浅草で初めて寄席を覗いた。正月ということで、顔見せ興業で、前座から真打まで一人15分ぐらい取っ替え引っ替え交代する。最後の方で春風亭小朝が出てくる。話すテンポ、間(ま)がいい。観客を話の中に自然に引き込んでいく。少しでもあやかりたい。

笑顔の絶えない家庭・会社にしたいものである。

社長の仕事 税理士 大場史郎

人手不足

昨年(朝起きるといきなりの銀世界だった)と違って今年は穏やかな元旦である。2016年はこの天候のような1年であってほしい。

関与先の会社・個人事業主の皆様の決算書・試算表等から拝察すると昨年は比較的順調だったように思います。アベノミクスがようやく下流まで流れてきたようだ。

商売の基本の人・物・金のうち今は物と金はいつでも手当てできる。金融は日銀の黒田バズーカの影響でゆるゆるで、よほど決算内容が悪くない限りかかってない低金利で欲しい資金は調達できる。今年我々中小企業が最も悩むのは人手の確保だろう。

最近近所のスーパーでよく見るのは、中高年のリタイヤした男性が学生や主婦に交じって働いている姿です。かつては、男性は店長や鮮魚担当の社員など限られ、レジや陳列などの補助者は主婦のパートが大半だった、これも時代の変化か。

パート社員も今年10月から年収1,056,000円以上で社会保険の加入が義務付けられる。いわゆる130万円の壁が下がってきた。但し当面500人超の企業に限られるが、3年経過後に見直しがあるようなので、

我々中小企業にも来そうだ。

平均寿命が80歳を超えるようになって、国は定年年齢を60歳から65歳に、年金の支給開始年齢も同様に段階的に引き上げている。海外ではさらに70歳に引上げようとしている。日本は世界一の長寿国だ。年金は15年ぐらいの支給期間を想定している。85歳まで生きたとしたら、支給開始が70歳でもいいかもしれない。

会社を経営するものとして、どのように適正な人材を確保するかは死活問題になる。

採りにくく、コストのかかる人材を無駄なく働いてもらうにはITやロボットなどを使って効率のいい経営をすることが求められる。

国も減ってくる労働生産人口(15歳以上65歳未満)、年金の支給年齢の引上げ等を補うため、「一億総活躍社会」の実現と称して、家庭にいる女性の活用、高齢者の就労など後押しをしている。

そのためには多様な働き方があっていいと思う。週休3日、1日5時間の勤務、さらには在宅での勤務など。我々経営者も業務に人を合わせるのではなく、人に仕事を合わせることを求められる。今までの常識に囚われることなく考えてみる必要がある。